

はじめに

東日本大震災から1年が経過いたしました。1万6千人という多くの尊い命が失われ、そのうえ3千人以上の方々がいまだに行方不明のままです。自然の力の前になすすべもなく呆然とするばかりでしたが、一方で、この災害の傷跡から少しでも前に向かおうとしている方々、そしてそれを支える方々の“絆”の大切さを、多くの市民が再認識をいたしました。

亡くなられた皆様のご冥福と一日も早い復旧・復興をあらためてお祈り申し上げます。

また、昨今札幌を含め全国において、孤立死が社会問題となっており、福祉関係団体としての本会の責務の重さを痛感すると同時に、日頃からの地域のつながりを重視した「だれもが孤立せずにお互いに支え合うやさしい街づくり」がますます必要となっていることを実感しています。

本会では、このような今日的な福祉課題や生活課題等に向き合う責任と使命を盛り込むために、平成21年度5月に策定した「さっぽろ市民福祉活動計画」を基本として継承しながらも、計画期間を1年繰り上げて、このたびの計画を策定いたしました。

この計画では、これまで実施してきた活動や事業の充実・強化を図ることはもとより、新たな取り組みとして、「福祉のまち推進事業」をさらに推進していくための取り組み、災害時の地域における支え合いの普及・啓発、成年後見制度の理解を広めるための調査・研究事業などを盛り込んでおります。

また、平成24年から進められる行政計画の「札幌市地域福祉社会計画」とも、密接に連携・連動し、より確実に計画の推進を図ってまいりたいと考えております。

最後になりますが、本計画の推進にあたりましては、地区社会福祉協議会、地区福祉のまち推進センターはじめ、地区民生委員児童委員協議会などの地域の関係機関・諸団体、福祉施設、ボランティア・NPOの皆様のご協力が必要であります。どうぞ本計画並びに本会、区社会福祉協議会の取り組みにご理解とご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

平成24年4月

社会福祉法人 札幌市社会福祉協議会
会 長 大 公 一 郎